

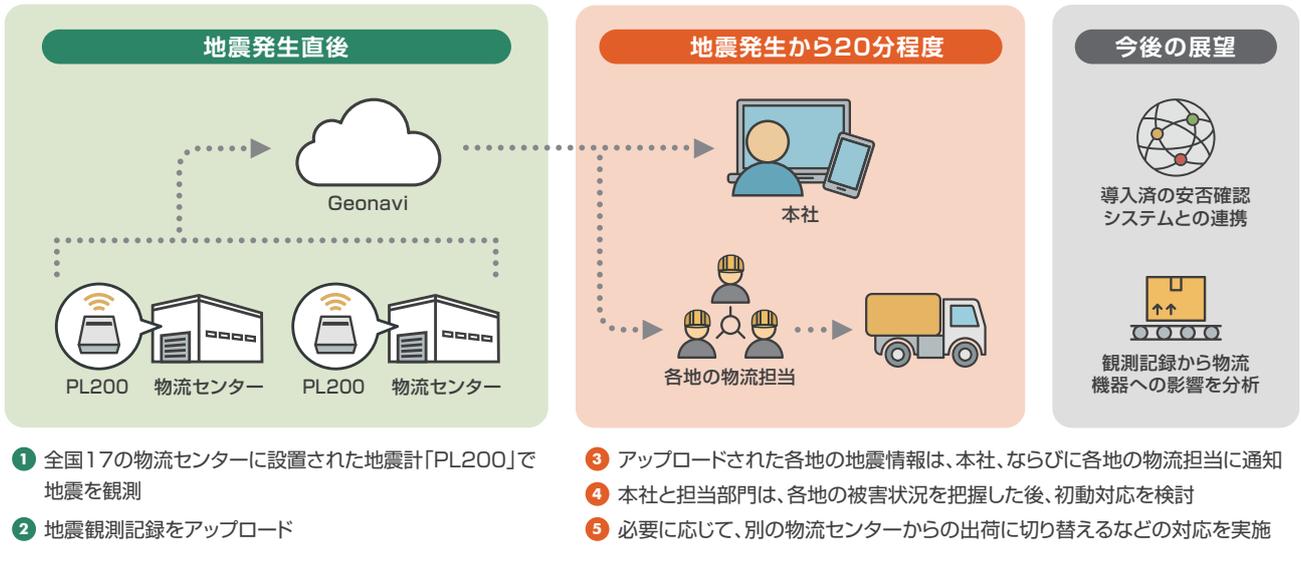
全国の物流センターの被害状況を一元管理

IoT地震観測サービス導入により、
サプライチェーンを一層強化

■ 導入の背景

当社が取り扱う商品は災害対策として利用されるものも多く、以前より、ある地域が災害に遭った場合でも、別の地域の拠点でバックアップできる体制を整えていましたが、地震は、全国どこでも発生する可能性があることに加え、一度大地震が発生した場合の影響が甚大であることから、対策が不可欠でした。

提供システム

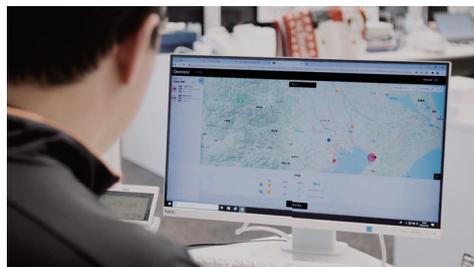


■ 導入の決め手

地震計だけでなく、観測震度や機器の稼働状況を管理できるプラットフォーム、メール通知機能まで、トータルシステムで提供されていることです。加えて、API連携機能が搭載されているので、今後のシステム拡張を期待できた点も大きかったです。他社と比べてランニングコストが安い点も魅力でした。

■ 導入後の変化

これまでは気象庁の震度情報を基に建物の被害調査・各種対応の判断を行っていましたが、導入後は対象建物の正確な震度情報に基づいて事前に被害想定を行い、立ち入り可否・被害調査対応の人数や時間の想定を行えるようになりました。震度情報が24時間タイムリーに観測できることや、遠方にいても被害状況を想像しやすいことが初動対応の行いやすさに繋がっています。



インタビューの詳細と
導入事例動画を
Webサイトで公開中！



本サービスは、提供開始以降も継続的なアップデートを行っています。
以下にアップデート情報をお知らせします。

UPDATE 1

中低層ビルの地震被害を簡易推定する新サービス 「地震あんしんカルテ」を提供

対象建物の1階と上階に設置した地震計の計測結果より求めた「最大層間変形角」と「最大加速度」から、「構造体」「外壁・内装等」「什器等」の3項目の被害状況を推定し、点検の必要性を案内する機能です。本サービスの被害推定結果と従来の目視点検を組み合わせることで、中低層ビルやオフィスにおける地震直後の避難指示等について、より適切な判断が可能となります。



UPDATE 2

工場・インフラ施設の地震被害把握に役立つ 「SI値表示サービス」を提供

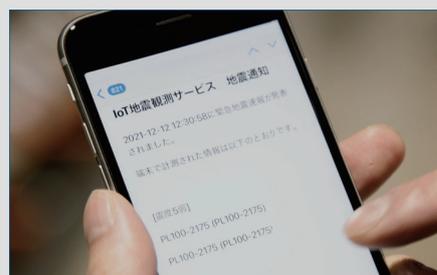
SI値(スペクトル強度)は、地震動の破壊力を表す指標の一つとして、ガス業界や工場、鉄道施設での稼働停止や点検実施の判断を行うための指標として幅広く活用されています。今回、ユーザーからの要望が多かったSI値について開発を行い、クラウドサービス「Geonavi」上でマップ/リスト表示できるようになりました。



UPDATE 3

より迅速な初動対応につながる 「メール文章カスタマイズ」機能の提供

サービス提供開始当初から、迅速な初動対応につながるソリューションを提供するため、メール通知機能を標準装備しています。今回の機能追加によって、本サービスの提供する全ての種類の配信メールでメッセージ内容を変更することが可能となり、お客様自身でご準備されている初動対応マニュアル等と紐づけることで、より迅速な初動対応が可能となります。



※このカタログに記載された仕様・デザインは予告なしに変更することがあります。 ※このカタログの記載内容は2023年1月13日現在のものです。

